



## トランクの設定

ゲートキーパー（つまり、ホールセール ネットワークやゲートキーパーによって制御されるクラスター間トランク）への論理ルート、ゲートキーパーによって制御されないクラスター間トランクへの論理ルート、または SIP ネットワークへの論理ルートを設定するには、トランク デバイスを使用します。次の使用可能なトランク タイプからいずれかを選択してください。

- H.225 トランク（ゲートキーパー制御）
- クラスター間トランク（ゲートキーパー制御）
- クラスター間トランク（ゲートキーパー非制御）
- SIP トランク

Cisco Unified Communications Manager トランクの設定については、次のトピックを参照してください。

- 「トランクの設定値」(P.68-1)
- 「トランクの検索」(P.68-63)
- 「トランクの設定」(P.68-64)
- 「トランクの削除」(P.68-66)
- 「トランクのリセット」(P.68-67)
- 「トランクの同期化」(P.68-68)
- 「関連項目」(P.68-68)

## トランクの設定値

ゲートキーパー（つまり、ホールセール ネットワークやゲートキーパーによって制御されるクラスター間トランク）への論理ルート、ゲートキーパーによって制御されないクラスター間トランクへの論理ルート、または SIP ネットワークへの論理ルートを設定するには、トランク デバイスを使用します。次の使用可能なトランク タイプからいずれかを選択してください。

- H.225 トランク（ゲートキーパー制御）
- クラスター間トランク（ゲートキーパー制御）
- クラスター間トランク（ゲートキーパー非制御）
- SIP トランク



ヒント

SIP トランクを設定する前に、SIP トランク セキュリティ プロファイルおよび SIP プロファイルを設定します。詳細については、「SIP プロファイルの設定値」(P.76-1)、「SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定」(P.25-3)、および『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。



ヒント

トランクをリセットすると、そのトランクを使用している進行中のコールがすべて終了されます。ゲートウェイを再起動すると、そのゲートウェイを使用している進行中のコールを保持しようとします。それ以外のデバイスでは、コールが完了するまで待機してから、再起動またはリセットされます。H.323 または SIP デバイスの再起動やリセットは、ハードウェアを物理的に再起動またはリセットするのではなく、Cisco Unified Communications Manager によってロードされた設定を初期化するだけです。

SIP トランクの場合、[リスタート (Restart)] と [リセット (Reset)] は同様に動作するので、どちらをクリックしてもすべてのアクティブ コールが接続解除されます。パケット キャプチャを使用可能または使用不可にする場合は、トランクに対して [リスタート (Restart)] も [リセット (Reset)] も実行する必要はありません。

表 68-1 では、ゲートキーパーによって制御された H.225 トランク、ゲートキーパーによって制御されたクラスター間トランク、およびゲートキーパーによって制御されないクラスター間トランクの各設定値について説明します。

表 68-2 では、SIP トランクの設定値について説明します。

関連する手順の詳細については、「関連項目」(P.68-68) を参照してください。

**表 68-1 H.225 トランクとクラスター間トランクの設定値**

フィールド	説明
<b>[デバイス情報 (Device Information)]</b>	
[デバイス名 (Device Name)]	このトランクに固有の識別子を入力します。
[説明 (Description)]	トランクの記述名を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	トランク用に適切なデバイス プールを選択します。  トランク用のデバイス プールは、トランクがコールの負荷を動的に分散するために使用する Cisco Unified Communications Manager のリストを指定します。  <b>(注)</b> トランクのデバイス プールに属さない Cisco Unified Communications Manager に登録された電話機からのコールは、さまざまな発信コールに対してこのデバイス プールのさまざまな Cisco Unified Communications Manager を使用します。ノードの選択は、順不同で行われます。  トランクのデバイス プールに属している Cisco Unified Communications Manager に登録された電話機からのコールは、その Cisco Unified Communications Manager が起動し動作していれば、発信コールに対して同じ Cisco Unified Communications Manager ノードを使用します。

表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	このトランクを割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。共通デバイス設定は、[ 共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定します。
[ コールの分類 (Call Classification)]	<p>このパラメータは、このトランクを経由する着信コールがネットワーク上にない ([ オフネット (OffNet)]) と見なされるか、ある ([ オンネット (OnNet)]) と見なされるかを示します。</p> <p>[ コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [ システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager サービス パラメータ Call Classification の設定値により、トランクが [ オンネット (OnNet)] か、または [ オフネット (OffNet)] かが決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが [ オンネット (OnNet)] または [ オフネット (OffNet)] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。警告トーンは、Cisco Unified Communications Manager アナウンサーによって提供されます。</p> <p>発信コールを [ オンネット (OnNet)] または [ オフネット (OffNet)] として認識するには、このパラメータと [ ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウでの設定を併用します。</p>
[ メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。

表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コールアドミッション制御) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオコールとビデオコールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオのアーベイラビリティを調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスから、このトランクの適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このトランクが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] &gt; [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「<a href="#">ロケーションの設定</a> (P.15-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「<a href="#">クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御</a>」を参照してください。</p> <p>ロケーションは、他のロケーションに関する RSVP ポリシーとも関連付けられます。この設定により、ロケーションペアに基づいて RSVP を使用可能にしたり使用不可にしたりすることができます。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの Automatic Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)]	<p>このドロップダウンリストボックスは、H.225 トランク、ゲートキーパー制御のトランク、およびゲートキーパー非制御のトランクに対して表示されます。</p> <p>トランクを使用して、H.323 シグナリング メッセージ内の H.323 以外のプロトコル情報を Cisco Unified Communications Manager から他の Annex M.1 準拠の H.323 PINX にトランスポート (トンネル) する場合は、[QSIG] オプションを選択します。Q Interface Signaling Protocol (QSIG) トンネルは、Call Completion、Call Diversion、Call Transfer、Identification Services、および Message Waiting Indication という機能をサポートします。</p>

表 68-1 H.225 トランクとクラスター間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[QSIG バリエーション (QSIG Variant)]	<p>[QSIG バリエーション (QSIG Variant)] ドロップダウン リスト ボックスにオプションを表示するには、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] を選択します。</p> <p>このパラメータは、アウトバウンド QSIG ファシリティの情報要素で送信されるプロトコル プロファイルを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [No Changes] : デフォルトです。別途、シスコのサポート エンジニアからの指示がない限り、このパラメータはデフォルト値のままにしておきます。</li> <li>• [-- 選択されていません --]</li> <li>• [ECMA] : プロトコル プロファイル 0x91 を使用する ECMA PBX に対して選択します。</li> <li>• [ISO] : プロトコル プロファイル 0x9F を使用する PBX に対して選択します。</li> </ul> <p>詳細については、次の情報を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [QSIG バリエーション (QSIG Variant)] は、クラスターワイド パラメータとしても定義できます。詳細については、<a href="#">第 22 章「サービス パラメータの設定」</a> を参照してください。</li> <li>• Cisco Unified Communications Manager での QSIG のサポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「<a href="#">IP テレフォニー プロトコルの概要</a>」の章の「<a href="#">Q.Signaling (QSIG)</a>」を参照してください。</li> </ul>

表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ASN.1 ROSE OID エンコーディング (ASN.1 ROSE OID Encoding)]	<p>[ASN.1 ROSE OID エンコーディング (ASN.1 ROSE OID Encoding)] ドロップダウン リスト ボックスにオプションを表示するには、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] を選択します。</p> <p>このパラメータは、Remote Operations Service Element (ROSE; 遠隔操作サービス要素) 操作に対する Invoke Object ID (OID) を符号化する方法を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [No Changes] : デフォルトです。別途、シスコのサポート エンジニアからの指示がない限り、このパラメータはデフォルト値のままにしておきます。</li> <li>• [-- 選択されていません --]</li> <li>• [Use Global Value (ECMA)] : [QSIG バリエント (QSIG Variant)] ドロップダウン リスト ボックスから [ECMA] オプションを選択した場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [Use Global Value (ISO)] : [QSIG バリエント (QSIG Variant)] ドロップダウン リスト ボックスから [ISO] オプションを選択した場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [Use Local Value]</li> </ul> <p>詳細については、次の情報を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ASN.1 ROSE OID エンコーディング (ASN.1 ROSE OID Encoding)] は、クラスタワイドパラメータとしても定義できます。詳細については、<a href="#">第 22 章「サービス パラメータの設定」</a>を参照してください。</li> <li>• Cisco Unified Communications Manager での QSIG のサポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「<a href="#">IP テレフォニー プロトコルの概要</a>」の章の「<a href="#">Q.Signaling (QSIG)</a>」を参照してください。</li> </ul>

表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[なし (None)] : このオプション (デフォルト設定) は、パケット キャプチャリングが行われないことを示します。パケット キャプチャリングが完了したら、この値に設定してください。</li> <li>[バッチ処理モード (Batch Processing Mode)] : Cisco Unified Communications Manager が復号化または非暗号化されたメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは毎日、新しい暗号鍵を持つ新しいファイルを作成します。Cisco Unified Communications Manager は、ファイルを 7 日間保存し、また安全な場所でファイルを暗号化する鍵も保存します。Cisco Unified Communications Manager は、ファイルを PktCap 仮想ディレクトリに保存します。単一のファイルには、タイム スタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、宛先 IP アドレス、パケット プロトコル、メッセージ長、およびメッセージが含まれます。IREC ツールは、Hypertext Transfer Protocol over Secure Sockets Layer (HTTPS)、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む単一の暗号化されたファイルを要求します。さらに鍵情報も要求し、暗号化されたファイルを復号化します。</li> </ul> <p><b>ヒント</b> パケット キャプチャリングを使用可能または使用不可にした後で、トランクをリセットする必要はありません。</p> <p>パケットのキャプチャの詳細については、『<i>Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager</i>』を参照してください。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>このフィールドには、パケット キャプチャリングの 1 つのセッションに割り当てる最大分数を指定します。デフォルト設定は 0 です。ただし、0 ~ 300 分の範囲で指定できます。</p> <p>パケット キャプチャリングを開始するには、このフィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャリングの完了後、0 が表示されます。</p> <p>パケットのキャプチャの詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Troubleshooting Guide</i>』を参照してください。</p>

表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)]	<p>このチェックボックスでは、H.323 がサポートしない機能（たとえば、保留や転送）を実装するために、Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) を使用するかどうかを指定します。</p> <p>機能を実装するためにメディア ターミネーション ポイントを使用する場合は、[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)] チェックボックスをオンにします。機能を実装するためにメディア ターミネーション ポイントを使用しない場合は、[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)] チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 デバイスだけに使用してください。または、メディア ストリーミングを 1 つのソースで終了させる場合に使用してください。</p> <p>MTP を使用するためにこのチェックボックスをオンにして、発信側と着信側のどちらか一方または両方がビデオ エンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオとして動作します。</p>
[ビデオコールをオーディオとして再試行(Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントだけに適用されます。トランクの場合、このチェックボックスは Cisco Unified Communications Manager から受信されたコールには適用されますが、Wide Area Network (WAN; ワイドエリア ネットワーク) から受信されたコールには適用されません。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして（ビデオ コールとして接続できない場合）そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は自動代替ルーティング (AAR) およびルート/ハント リスト経由でコールをルーティングします。</p>
[ファーエンド H.245 ターミナル機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set)]	<p>このフィールドは H.323 デバイスだけに適用されます。</p> <p>このチェックボックスでは、Cisco Unified Communications Manager がファーエンド H.245 ターミナル機能セットを受信した後に、その H.245 ターミナル機能セットを送信するように指定します。このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco Unified Communications Manager が機能交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。</p>



表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パス置換サポート (Path Replacement Support)]	<p>このチェックボックスは、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウンリストボックスから [QSIG] オプションを選択した場合に、H.225 トランク、ゲートキーパー制御のトランク、およびゲートキーパー非制御のトランクに対して表示されます。この設定は QSIG トンネル (Annex M.1) と連動し、パス置換を使用するコールに H.323 以外の情報を確実に送信します。</p> <p><b>(注)</b> デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] で [QSIG] オプションを選択した場合、このチェックボックスは自動的にオンになります。</p>
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、SIP トランクのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスに対するデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>着信側デバイスは、そのデバイスの送信側デバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。</p> <p><b>(注)</b> トランクの両端に、同じ言語グループに属さないユーザ ロケールが設定されている場合、電話機に表示される文字が文字化けすることがあります。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	<p>コールを不在ポート (ボイスメール ポートなど) にリダイレクト、任意転送、および自動転送できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスのデフォルト値はオフです。</p>

表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)


フィールド	説明
[SRTP を許可 (SRTP Allowed)]	<p>トランクを介したセキュア コールと非セキュア コールを Cisco Unified Communications Manager で許可する場合は、[SRTP を許可 (SRTP Allowed)] チェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合、Cisco Unified Communications Manager はトランクとの Secure Real-Time Protocol (SRTP) ネゴシエーションを防止し、Real-Time Protocol (RTP) を使用します。</p> <p> <b>注意</b> このチェックボックスをオンにする場合は、IP セキュリティを設定して、コール ネゴシエーション中に鍵や他のセキュリティ関連の情報を公開しないようにすることを強くお勧めします。IPSec を正しく設定しないと、Cisco Unified Communications Manager とゲートウェイ間のシグナリングが非セキュアになることに注意してください。</p> <p>トランクの暗号化の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[H.235 パススルー使用可能 (H.235 Pass Through Allowed)]	<p>この機能を使用すると、Cisco Unified Communications Manager は 2 つの H.235 エンドポイント間で、共有秘密鍵 (Diffie-Hellman 鍵) と他の H.235 データを透過的にパススルーし、2 つのエンドポイント間でセキュアなメディア チャネルを確立できます。</p> <p>H.235 パススルーを許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[SAF の有効化 (Enable SAF)]	<p>このクラスタ間 (非ゲートキーパー制御) トランクを SAF に対して有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>SAF に対してトランクが有効になっている場合は、トランクでコール制御ディスカバリ機能をサポートできます。[アドバタイジング サービス (Advertising Service)] ウィンドウで CCD アドバタイジング サービスに割り当てられている SAF 有効トランクは、SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティからの着信コールを処理します ([コールルーティング (Call Routing)] &gt; [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] &gt; [アドバタイジング サービス (Advertising Service)])。CCD 要求サービスに割り当てられている SAF 有効トランクは、学習パターンへの発信コールを処理します ([コールルーティング (Call Routing)] &gt; [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] &gt; [要求サービス (Requesting Service)])。</p> <p>コール制御ディスカバリ機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「コール制御ディスカバリ」を参照してください。</p>

表 68-1 H.225 トランクとクラスター間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント デバイス) を挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。</li> <li>• [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。</li> <li>• [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。</li> </ul> <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク仮想化および信頼できるリレーポイントの詳細な説明については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレーポイント」の項、およびそのサブトピックを参照してください。</p>

表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[PSTN アクセス (PSTN Access)]	<p>Cisco Intercompany Media Engine 機能を使用する場合、このトランク経由で発信されたコールが PSTN に到達する可能性があることを示すには、このチェックボックスをオンにします。このトランク デバイス経由のすべてのコールが PSTN に到達しない場合でも、このチェックボックスをオンにします。たとえば、コールが PSTN に到達する可能性がある場合、タンデム トランクまたは H.323 ゲートキーパーによりルーティングされるトランクについてこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、このトランク デバイス経由で発信されたコールを検証するための Voice Call Records (VCRs; 音声コール レコード) が作成およびアップロードされます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。</p> <p>Cisco Intercompany Media Engine の詳細については、『Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide』を参照してください。</p>
<b>[Intercompany Media Engine (IME)]</b>	
[E.164 トランスフォーメーションプロファイル (E.164 Transformation Profile)]	<p>Cisco Intercompany Media Engine を使用し、コールが PSTN に到達する可能性がある場合は、このチェックボックスをオンにします。詳細については、『Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide』を参照してください。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、[Intercompany Media Service E.164 トランスフォーメーションの設定 (Intercompany Media Services E.164 Transformation Configuration)] ウィンドウで作成した適切な E.164 トランスフォーメーションを選択します ([拡張機能 (Advanced Features)] &gt; [Intercompany Media Services] &gt; [E.164 トランスフォーメーション (E.164 Transformation)])。</p> <p>Cisco Intercompany Media Engine の詳細については、『Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide』を参照してください。</p>
<b>[着信発呼者の設定 (Incoming Calling Party Settings)]</b>	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	<p>すべての発呼側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。</p>
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	<p>すべてのプレフィックス フィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。</p>

表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 国内番号 (National Number)]	<p>[ 発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [ 国内 (National)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[ 発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [ 国内 (National)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。</li> </ul> <p>[ プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[ 削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [ プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [ 削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[ デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [ プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ 削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [ 国内 (National)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。</li> <li>• [ デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [ 国内番号 (National Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。</li> <li>• [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [ 国内 (National)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</li> </ul> <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [ なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌル パーティションに設定してください。</p> <p><b>ヒント</b> これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[ デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [ トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 68-1 H.225 トランクとクラス間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 国際番号 (International Number)]	<p>[ 発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [ 国際 (International)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ プレフィックス (Prefix) ] : Cisco Unified Communications Manager は、[ 発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [ 国際 (International)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。</li> </ul> <p>[ プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[ 削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [ プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [ 削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[ デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [ プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ 削除桁数 (Strip Digits) ] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [ 国際 (International)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。</li> <li>[ デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS) ] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [ 国際番号 (International Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。</li> <li>[ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] : この設定を使用すると、デバイスで [ 国際 (International)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てられた発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</li> </ul> <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [ なし (None) ] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌル パターンに設定してください。</p> <p><b>ヒント</b> これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[ デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)」、[ ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)」、または [ トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 68-1 H.225 トランクとクラスター間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[加入者番号 (Subscriber Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。</li> </ul> <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [加入者 (Subscriber)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。</li> <li>• [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [加入者番号 (Subscriber Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。</li> <li>• [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [加入者 (Subscriber)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</li> </ul> <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p><b>ヒント</b> これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 68-1 H.225 トランクとクラス間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 不明な番号 (Unknown Number)]	<p>[ 発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [ 不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ プレフィックス (Prefix) ] : Cisco Unified Communications Manager は、[ 発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [ 不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。</li> </ul> <p>[ プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[ 削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [ プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [ 削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[ デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [ プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービスパラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ 削除桁数 (Strip Digits) ] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [ 不明 (Unknown)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。</li> <li>[ デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS) ] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [ 不明な番号 (Unknown Number)] フィールドのコーリングサーチスペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。</li> <li>[ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] : この設定を使用すると、デバイスで [ 不明 (Unknown)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</li> </ul> <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [ なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p><b>ヒント</b> これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[ デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [ トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>



表 68-1 H.225 トランクとクラスター間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>[着信の着呼側設定 (Incoming Called Party Settings)]</b>	
H.323 プロトコルは、国際的なエスケープ文字 + をサポートしていません。+ を含め正しいプレフィックスが H.323 トランク経由の着信コールに適用されるようにするには、着信の着呼側設定を行います。つまり、着信の着呼側設定を行うことにより、着信コールが H.323 トランク経由で到達したときに、Cisco Unified Communications Manager によって、着信側番号がトランク経由で最初に送信された値に変換されるようになります。	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	すべての着信側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	すべてのプレフィックス フィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。

表 68-1 H.225 トランクとクラス間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 国内番号 (National Number)]	<p>[ 着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [ 国内 (National)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ プレフィックス (Prefix) ] : Cisco Unified Communications Manager は、[ 着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [ 国内 (National)] を使用する着信側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。</li> </ul> <p><b>ヒント</b> [ プレフィックス (Prefix) ] フィールドに Default と表示された場合、[ 削除桁数 (Strip Digits) ] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [ プレフィックス (Prefix) ] フィールドおよび [ 削除桁数 (Strip Digits) ] フィールドの設定を取得します。[ デバイスプール設定 (Device Pool Configuration) ] ウィンドウの [ プレフィックス (Prefix) ] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p><b>ヒント</b> [ 削除桁数 (Strip Digits) ] フィールドを設定するには、[ プレフィックス (Prefix) ] フィールドをブランクのままにするか、または [ プレフィックス (Prefix) ] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[ 削除桁数 (Strip Digits) ] フィールドを設定するには、[ プレフィックス (Prefix) ] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ 削除桁数 (Strip Digits) ] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [ 国内 (National) ] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。</li> <li>[ デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS) ] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [ 国内番号 (National Number) ] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。</li> <li>[ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] : この設定を使用すると、デバイスで [ 国内 (National) ] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[ なし (None) ] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</li> </ul>

表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 国際番号 (International Number)]	<p>[ 着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [ 国際 (International)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[ 着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [ 国際 (International)] を使用する着信側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。</li> </ul> <p><b>ヒント</b> [ プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[ 削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [ プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [ 削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[ デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [ プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p><b>ヒント</b> [ 削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[ プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [ プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[ 削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[ プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ 削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [ 国際 (International)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。</li> <li>[ デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [ 国際番号 (International Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。</li> <li>[ コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [ 国際 (International)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[ なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</li> </ul>

表 68-1 H.225 トランクとクラス間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 不明な番号 (Unknown Number)]	<p>[ 着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [ 不明 (Unknown)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ プレフィックス (Prefix) ] : Cisco Unified Communications Manager は、[ 着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [ 不明 (Unknown)] を使用する着信番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。</li> </ul> <p><b>ヒント</b> [ プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[ 削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [ プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [ 削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[ デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [ プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p><b>ヒント</b> [ 削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[ プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [ プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。これらのウィンドウで [ 削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定する場合は、[ プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ 削除桁数 (Strip Digits) ] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [ 不明 (Unknown)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。</li> <li>[ デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS) ] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [ 不明な番号 (Unknown Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。</li> <li>[ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] : この設定を使用すると、デバイスで [ 不明 (Unknown)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[ なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</li> </ul>

表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[加入者番号 (Subscriber Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する着信番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含むことができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。</li> </ul> <p><b>ヒント</b> [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p><b>ヒント</b> [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [加入者 (Subscriber)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。</li> <li>[デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [加入者番号 (Subscriber Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。</li> <li>[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [加入者 (Subscriber)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</li> </ul>

表 68-1 H.225 トランクとクラス間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]</b>	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。このフィールドをブランクのままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、デバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] の設定値を引き継ぎます。</li> <li>[オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。</li> <li>[オン (On)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。</li> </ul> <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
<b>[コールルーティング情報 (Call Routing Information)]</b>	
<b>[インバウンドコール (Inbound Calls)]</b>	
[有意な数字 (Significant Digits)]	<p>有意な数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。H.323 デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。</p> <p>収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。</p>

表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なトランクのコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、収集された（発信）番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションの集合を指定します。</p> <p><b>Max List Box Items</b> エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示する項目数を設定することができます。<b>Max List Box Items</b> エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのコーリングサーチスペースが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。詳細については、「<a href="#">コーリングサーチスペースの設定値</a>」(P.41-1) を参照してください。</p> <p><b>(注)</b> リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] &gt; [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された（発信）番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
[プレフィックス DN(Prefix DN)]	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、まず、[有意な数字 (Significant Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p> <p>国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>Cisco Unified Communications Manager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>Redirecting Number IE を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用しません。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p><b>(注)</b> デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウンリストボックスで [QSIG] オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>

表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[インバウンド FastStart を有効にする (Enable Inbound FastStart)]	<p>着信コールで H.323 FastStart コール接続を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイ用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>クラスタ間コールの場合、他のクラスタの Cisco Unified Communications Manager サーバで [インバウンド FastStart を有効にする (Enable Inbound FastStart)] チェックボックスをオンにして、外部 FastStart を機能させる必要があります。</p>
<b>[アウトバウンドコール(Outbound Calls)]</b>	
[着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイス上で着信側番号をローカライズできます。選択する着信側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p><b>(注)</b> [着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの着信側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Called Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている着信側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでこのデバイスに設定した [着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] が使用されます。</p>
[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p><b>ヒント</b> コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで設定した [発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] が使用されます。</p>



表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	<p>ゲートウェイ上の発信コールで送信される電話番号を選択します。次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>[最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : 転送デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>[最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>[最初のリダイレクト番号 (外部) (First Redirect Number (External))] : リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。</li> <li>[最後のリダイレクト番号 (外部) (Last Redirect Number (External))] : コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。</li> </ul>
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側の番号表示画面での発呼側番号の表示を制御するために、補助的なサービスとして Calling Line ID Presentation (CLIP; 発呼者回線 ID の表示) を使用します。</p> <p>CLIP の設定を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。発呼側番号情報を表示する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。発呼側番号情報を表示しない場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p>
[着信側 IE 番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、North American Numbering Plan (NANP) やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。</li> <li>[不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。</li> <li>[国内 (National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>[国際 (International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>[加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。</li> </ul>

表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)]	<p>発信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。</li> <li>• [不明(Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。</li> <li>• [国内(National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• [国際(International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• [加入者(Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。</li> </ul> <p><b>ヒント</b> [ 発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)] 設定値は、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウおよび [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで設定できます。この設定値を設定できる場合、デフォルトの [Cisco Unified Communications Manager] 以外のオプションを選択すると、このフィールドの設定値によって、特定のゲートウェイを通過する発信コールの [発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] 設定値は上書きされます。</p>

表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 着信番号計画 (Called Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側番号計画が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号の番号計画を設定する場合に使用します。</li> <li>• [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• [非通知 (Private)] : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。</li> </ul>

表 68-1 H.225 トランクとクラス間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 発呼番号計画 (Calling Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、発呼番号計画が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号の番号計画を設定する場合に使用します。</li> <li>• [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• [国内標準(National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• [非通知(Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• [不明(Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。</li> </ul>
[ 発信者 ID DN(Caller ID DN)]	<p>トランクからの発信コールで、発信者 ID をフォーマットするのに使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、セントラル オフィス (CO) は、エリアコードとともにこの番号を追加します。</li> <li>• 5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードとともにこの番号を追加します。</li> </ul> <p>国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。</p>
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	<p>発信側と着信側のネーム デリバリー サービスに対する SETUP および CONNECT メッセージ内で、表示 Information Element (IE; 情報要素) のデリバリを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。 [トンネル化プロトコル(Tunneled Protocol)] ドロップダウンリストボックスで [QSIG] オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>

表 68-1 H.225 トランクとクラスター間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>コールが自動転送された場合にコールの最初の転送番号と転送理由を示すには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>最初の転送番号と転送理由を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p><b>(注)</b> デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウンリストボックスで [QSIG] オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>
[アウトバウンド FastStart を有効にする (Enable Outbound FastStart)]	<p>発信コールで H.323 FastStart 機能を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイまたはトランク用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>[アウトバウンド FastStart を有効にする (Enable Outbound FastStart)] チェックボックスがオンの場合、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]、および [アウトバウンド FastStart 用コーデック (Codec For Outbound FastStart)] を設定する必要があります。</p>
[アウトバウンド FastStart 用コーデック (Codec For Outbound FastStart)]	<p>発信 FastStart コール用に H.323 デバイスとともに使用するため、次のいずれかのコーデックを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [G711 mu-law 64K] (デフォルト)</li> <li>• [G711 a-law 64K]</li> <li>• [G723]</li> <li>• [G729]</li> <li>• [G729AnnexA]</li> <li>• [G729AnnexB]</li> <li>• [G729AnnexA-AnnexB]</li> </ul> <p>[アウトバウンド FastStart を有効にする (Enable Outbound FastStart)] チェックボックスがオンの場合、発信 FastStart コールをサポートしているコーデックを選択する必要があります。</p>

表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ゲートキーパー情報 (Gatekeeper Information)] (ゲートキーパーによって制御された H.225 トランクまたはクラスタ間トランク)	
[ゲートキーパー名 (Gatekeeper Name)]	このトランクを制御するゲートキーパーを選択します。  (注) ゲートキーパーによって制御されるトランクが H.323 ダイナミック アドレッシングを使用してゲートキーパーに正しく登録されるようにするには、Send Product ID and Version ID サービス パラメータを [True] に設定する必要があります (デフォルトは [False] です)。この設定を行うには、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択して、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [Clusterwide Parameters (Device - H323)] で Cisco CallManager サービスの Send Product ID and Version ID サービス パラメータを見つけます。
[ターミナルタイプ (Terminal Type)]	このトランクが制御するデバイスすべてのタイプを指定します。  通常のトランク コール アドミッション制御には、このフィールドに常に [ゲートウェイ (Gateway)] を設定します。
[テクノロジープレフィックス (Technology Prefix)]	ゲートキーパーで <b>gw-type-prefix</b> を設定するときに、各 Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスを入力する必要をなくすために使用します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>このフィールドをブランクのままにする (デフォルト値) 場合は、ゲートキーパーで <b>gw-type-prefix</b> コマンドを入力するときに、ゲートキーパーに登録できる各 Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスを指定する必要があります。</li> <li>このフィールドを使用する場合は、ここで入力した値が、ゲートキーパーの <b>gw-type-prefix</b> コマンドで指定した <i>type-prefix</i> 値と正確に一致することを確認します。</li> </ul> <p>たとえば、このフィールドをブランクのままにした場合、IP アドレス 10.1.1.2 と 11.1.1.3 を持つ 2 つの Cisco Unified Communications Manager があるときは、ゲートキーパーで次の <b>gw-type-prefix</b> コマンドを入力します。</p> <pre>gw-type-prefix 1#* default-technology gw ip 10.1.1.2 gw ip 11.1.1.3</pre> <p>このフィールドに <b>1#*</b> を入力した場合、ゲートキーパーで次の <b>gw-type-prefix</b> コマンドを入力します。</p> <pre>gw-type-prefix 1#* default-technology</pre>

表 68-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ゾーン (Zone)]	<p>Cisco Unified Communications Manager が登録されるゲートキーパーに関して特定ゾーンを要求するには、このオプションフィールドを使用します。[ゾーン (Zone)] は、このゾーンと別のゾーンとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このフィールドに値を入力しない場合は、ゲートキーパー上の <b>zone subnet</b> コマンドによって、Cisco Unified Communications Manager が登録されるゾーンが決まります。大部分の設定では、デフォルト値をお勧めします。</li> <li>ゲートキーパー上の特定のゾーンに Cisco Unified Communications Manager を登録する場合は、<b>zone</b> コマンドを使用してゲートキーパー上で設定されたゾーン名と正確に一致する値を入力します。このフィールドにゾーン名を指定すると、ゲートキーパーに登録される各 Cisco Unified Communications Manager に対して、<b>zone subnet</b> コマンドを入力する必要がなくなります。</li> </ul> <p>詳細については、使用しているゲートキーパーのコマンドリファレンスマニュアルを参照してください。</p>
<b>[リモートの Cisco Unified CM 情報 (Remote Cisco Unified Communications Manager Information)]</b>	
(ゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランク)	
[サーバ 1 IP アドレス/ホスト名 (Server 1 IP Address/Host Name)]	このトランクがアクセスする最初のリモート Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。
[サーバ 2 IP アドレス/ホスト名 (Server 2 IP Address/Host Name)]	このトランクがアクセスする 2 番目のリモート Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。
[サーバ 3 IP アドレス/ホスト名 (Server 3 IP Address/Host Name)]	このトランクがアクセスする 3 番目のリモート Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。
<b>[UUIE の設定 (UUIE Configuration)]</b>	
[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)]	<p>MLPP 情報が PRI 4ESS UUIE フィールドを通過できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このボックスは、DRSN スイッチとの相互作用で使用されます。</p> <p>PRI 4ESS の [PRI プロトコルタイプ (PRI Protocol Type)] 値がこのトランクに指定されている場合に限り、システムによってこのチェックボックスが使用可能になります。</p> <p>デフォルト値は、オフです。</p>
[セキュリティアクセスレベル (Security Access Level)]	セキュリティ アクセス レベルの値を入力します。有効値は 00 ~ 99 です。[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)] チェックボックスがオンの場合に限り、このフィールドを使用できます。デフォルト値は 2 です。

表 68-1 H.225 トランクとクラス間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]</b>	
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] &gt; [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の説明については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「<a href="#">位置情報</a>」の章の「<a href="#">位置情報について</a>」および「<a href="#">位置情報の設定</a>」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「<a href="#">論理パーティション</a>」を参照してください。</p>
[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>[&lt;なし (None)&gt;] 設定のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタが適用されません。</p> <p>[システム (System)] &gt; [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「<a href="#">位置情報</a>」の章の「<a href="#">位置情報フィルタについて</a>」および「<a href="#">位置情報フィルタの設定</a>」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報フィルタの使用法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「<a href="#">論理パーティション</a>」を参照してください。</p>
[位置情報の送信 (Send Geolocation Information)]	<p>このデバイスの位置情報を送信するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>論理パーティションで位置情報を使用する方法の概要と詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「<a href="#">論理パーティション</a>」の章を参照してください。</p>



表 68-2 では、SIP トランクの設定値について説明します。

表 68-2 SIP トランクの設定値

フィールド	説明
[トランクサービスタイプ (Trunk Service Type)]	<p>[トランクサービスタイプ (Trunk Service Type)] ドロップダウンリスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [なし (None)] : コール制御ディスカバリ、クラスタ間のエクステンション モビリティ、または Cisco Intercompany Media Engine にトランクが使用されない場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)] : このオプションを選択すると、トランクでコール制御ディスカバリをサポートできるようになります。[アドバタイジングサービス (Advertising Service)] ウィンドウで CCD アドバタイジング サービスにこのトランクを割り当てた場合、トランクは、SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティからの着信コールを処理します。[要求サービス (Requesting Service)] ウィンドウで CCD 要求サービスにこのトランクを割り当てた場合、トランクは、学習パターンへの発信コールを処理します。コール制御ディスカバリ機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「<a href="#">コール制御ディスカバリ</a>」を参照してください。</li> <li>• [クラスタ間のエクステンションモビリティ (Extension Mobility Cross Cluster)] : トランクで Extension Mobility Cross Cluster (EMCC; クラスタ間のエクステンション モビリティ) 機能をサポートできるようにするには、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]、[不在ポート (Unattended Port)]、[接続先アドレス (Destination Address)]、[接続先アドレス IPv6 (Destination Address IPv6)]、および [接続先アドレスは SRV (Destination Address is an SRV)] の設定がブランクまたはオフのままになるか、設定できなくなってデフォルト値が保持されることとなります。EMCC 機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「<a href="#">Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ</a>」の章を参照してください。</li> <li>• [Cisco Intercompany Media Engine] : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされ、使用可能になっていることを確認してください。</li> </ul> <p><b>ヒント</b> トランク サービス タイプで [コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery)]、[クラスタ間のエクステンションモビリティ (Extension Mobility Cross Cluster)]、または [Cisco Intercompany Media Engine] を選択し、[次へ (Next)] をクリックすると、それ以降はトランクを別のタイプに変更できなくなります。</p>
<b>[デバイス情報 (Device Information)]</b>	
[デバイス名 (Device Name)]	このトランクに固有の識別子を入力します。

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[説明 (Description)]	トランクの記述名を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (" )、パーセント記号 (% )、アンパサンド (& )、バックスラッシュ (¥ )、または山カッコ (<> ) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>トランク用に適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>トランク用のデバイス プールは、トランクがコールの負荷を動的に分散するために使用する Cisco Unified Communications Manager のリストを指定します。</p> <p><b>(注)</b> トランクのデバイス プールに属さない Cisco Unified Communications Manager に登録された電話機からのコールは、さまざまな発信コールに対してこのデバイス プールのさまざまな Cisco Unified Communications Manager を使用します。Cisco Unified Communications Manager ノードの選択は、順不同で行われます。</p> <p>トランクのデバイス プールに属している Cisco Unified Communications Manager に登録された電話機からのコールは、その Cisco Unified Communications Manager が起動し動作していれば、発信コールに対して同じ Cisco Unified Communications Manager ノードを使用します。</p> <p>[デバイスプール (Device Pool)] のデフォルト値は [-- 選択されていません --] です。</p>
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	このトランクを割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定します。
[コールの分類 (Call Classification)]	<p>このパラメータは、このトランクを経由する着信コールがネットワーク上にない ([オフネット (OffNet)]) と見なされるか、ある ([オンネット (OnNet)]) と見なされるかを示します。</p> <p>[コールの分類 (Call Classification)] のデフォルト値は [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] です。[コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager サービス パラメータ Call Classification の設定値により、トランクが [オンネット (OnNet)] か、または [オフネット (OffNet)] かが決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが [オンネット (OnNet)] または [オフネット (OffNet)] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p> <p>発信コールを [オンネット (OnNet)] または [オフネット (OffNet)] として認識するには、このパラメータと [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウでの設定を併用します。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	<p>メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。</p> <p>[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] のデフォルト値は [なし (None)] です。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コールアドミッション制御) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオのアーベイラビリティを調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、このトランクの適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このトランクが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] &gt; [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「<a href="#">ロケーションの設定</a>」(P.15-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「<a href="#">クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御</a>」を参照してください。</p> <p>ロケーションは、他のロケーションに関する RSVP ポリシーとも関連付けられます。この設定により、ロケーション ペアに基づいて RSVP を使用可能にしたり使用不可にしたりすることができます。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p> <p>[AAR グループ (AAR Group)] のデフォルト値は [なし (None)] です。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)]	<p>SIP トランクまたは SIP ゲートウェイを使用して Cisco Unified Communications Manager から他の PINX に QSIG メッセージを送信 (トンネル) する場合は、[QSIG] オプションを選択します。QSIG トンネルは、折返し、Call Completion、自動転送、コール転送、ID サービス、パス置換、および Message Waiting Indication (MWI; メッセージ受信のインジケータ) の各機能をサポートします。</p> <p><b>(注)</b> SIP ゲートウェイから着信する Remote-Party-ID (RPID) ヘッダーが QSIG コンテンツに干渉し、これによって折返し機能で予期せぬ動作が発生する可能性があります。QSIG コンテンツへの干渉を防ぐには、SIP ゲートウェイで RPID ヘッダーを無効にします。</p> <p>SIP ゲートウェイで RPID ヘッダーを無効にするには、次の例に示すように、SIP プロファイルをゲートウェイの voIP ダイアル ピアに適用します。</p> <pre>voice class sip-profiles 1000 request ANY sip-header Remote-Party_ID remove response ANY sip-header Remote-Party-ID remove  dial-peer voice 124 voip destination-pattern 3... signaling forward unconditional session protocol sipv2 session target ipv4:&lt;ip address&gt; <b>voice-class sip profiles 1000</b></pre>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[QSIG バリエント (QSIG Variant)]	<p>[QSIG バリエント (QSIG Variant)] ドロップダウン リスト ボックスにオプションを表示するには、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] を選択します。</p> <p>このパラメータは、アウトバウンド QSIG ファシリティの情報要素で送信されるプロトコル プロファイルを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [変更はありません (No Changes)] : デフォルトです。別途、シスコのサポート エンジニアからの指示がない限り、このパラメータはデフォルト値のままにしておきます。</li> <li>• [未選択 (Not Selected)]</li> <li>• [ECMA] : プロトコル プロファイル 0x91 を使用する ECMA PBX システムに対して選択します。</li> <li>• [ISO] : プロトコル プロファイル 0x9F を使用する PBX システムに対して選択します。</li> </ul> <p>詳細については、次の情報を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [QSIG バリエント (QSIG Variant)] は、クラスタワイドパラメータとしても定義できます。詳細については、<a href="#">第 22 章「サービスパラメータの設定」</a>を参照してください。</li> <li>• Cisco Unified Communications Manager での QSIG のサポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「<a href="#">IP テレフォニー プロトコルの概要</a>」の章の「<a href="#">Q.Signaling (QSIG)</a>」を参照してください。</li> </ul>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ASN.1 ROSE OID エンコーディング (ASN.1 ROSE OID Encoding)]	<p>[ASN.1 ROSE OID エンコーディング (ASN.1 ROSE OID Encoding)] ドロップダウン リスト ボックスにオプションを表示するには、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] を選択します。</p> <p>このパラメータは、遠隔操作サービス要素 (ROSE) 操作に対する Invoke Object ID (OID) を符号化する方法を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [変更はありません (No Changes)] : デフォルトです。別途、シスコのサポート エンジニアからの指示がない限り、このパラメータはデフォルト値のままにしておきます。</li> <li>• [未選択 (Not Selected)]</li> <li>• [グローバル値 ECMA を使用します (Use Global Value ECMA)] : [QSIG バリエーション (QSIG Variant)] ドロップダウン リスト ボックスから [ECMA] オプションを選択した場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [グローバル値 ISO を使用します (Use Global Value ISO)] : [QSIG バリエーション (QSIG Variant)] ドロップダウン リスト ボックスから [ISO] オプションを選択した場合は、このオプションを選択します。</li> <li>• [ローカル値を使用します (Use Local Value)]</li> </ul> <p>詳細については、次の情報を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ASN.1 ROSE OID エンコーディング (ASN.1 ROSE OID Encoding)] は、クラスタワイドパラメータとしても定義できます。詳細については、第 22 章「サービスパラメータの設定」を参照してください。</li> <li>• Cisco Unified Communications Manager での QSIG のサポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「IP テレフォニー プロトコルの概要」の章の「Q.Signaling (QSIG)」を参照してください。</li> </ul>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [なし (None)] : このオプション (デフォルト設定) は、パケット キャプチャリングが行われないことを示します。パケット キャプチャリングが完了したら、この値に設定してください。</li> <li>• [バッチ処理モード (Batch Processing Mode)] : Cisco Unified Communications Manager が復号化または非暗号化されたメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは毎日、新しい暗号鍵を持つ新しいファイルを作成します。Cisco Unified Communications Manager は、ファイルを 7 日間保存し、また安全な場所でファイルを暗号化する鍵も保存します。Cisco Unified Communications Manager は、ファイルを PktCap 仮想ディレクトリに保存します。単一のファイルには、タイム スタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、宛先 IP アドレス、パケット プロトコル、メッセージ長、およびメッセージが含まれます。TAC デバッグ ツールは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む単一の暗号化されたファイルを要求します。さらに鍵情報も要求し、暗号化されたファイルを復号化します。</li> </ul> <p>TAC に連絡する前に、該当するデバイス間でスニファ トレースを使用して、SRTP パケットをキャプチャする必要があります。</p> <p>パケットのキャプチャの詳細については、『<i>Troubleshooting Guide for Cisco Unified Communications Manager</i>』を参照してください。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>このフィールドには、パケット キャプチャリングの 1 つのセッションに割り当てる最大分数を指定します。デフォルト設定は 0 です。ただし、0 ~ 300 分の範囲で指定できます。</p> <p>パケット キャプチャリングを開始するには、このフィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャリングの完了後、0 が表示されます。</p> <p>パケットのキャプチャの詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager Troubleshooting Guide</i>』を参照してください。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)]	<p>常に MTP を使用するように Cisco Unified Communications Manager SIP トランクを設定できます。発信 INVITE 要求でメディア チャネル情報を提供するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、すべてのメディア チャネルが MTP デバイス上で終了して再開するよう要求されます。このチェックボックスをオフにすると、コールが MTP デバイスを通過するか、エンドポイント間で直接接続されるかを、Cisco Unified Communications Manager が決定できます。</p> <p><b>(注)</b> オフ (デフォルト) のままの場合、コール ログの Dual Tone MultiFrequency (DTMF; デュアル トーン多重周波数) 方式に互換性がないと、Cisco Unified Communications Manager は MTP を動的に割り当てようとしません。</p> <p>たとえば、Skinny Call Control Protocol (SCCP) を実行する既存の電話機がアウトオブバンド DTMF だけをサポートしており、SIP を実行する既存の電話機が RFC2833 をサポートしているとした場合、DTMF 方式が同じでないため、Cisco Unified Communications Manager は MTP を動的に割り当てません。ただし、RFC2833 とアウトオブバンドをサポートする、SCCP を実行する新しい電話機が、SIP を実行する既存の電話機をコールする場合は、両方の電話機が RFC2833 をサポートしているため、Cisco Unified Communications Manager は MTP を割り当てません。したがって、各電話機で同じタイプの DTMF 方式がサポートされるようにすることにより、MTP は不要になります。</p>
[ビデオコールをオーディオとして再試行(Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、発信 SIP トランク コールに適用されませんが、着信コールには影響を及ぼしません。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は自動代替ルーティング (AAR) およびルート/ハント リスト経由でコールをルーティングします。</p>



表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)


フィールド	説明
[パス置換サポート (Path Replacement Support)]	<p>このチェックボックスが表示されるのは、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウンリストボックスで [QSIG] を選択した場合です。この設定は QSIG トンネルと連動し、パス置換を使用するコールに SIP 以外の情報を確実に送信します。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] で [QSIG] オプションを選択した場合、このチェックボックスは自動的にオンになります。また、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] オプションが [なし (None)] に設定された場合、[パス置換サポート (Path Replacement Support)] チェックボックスはグレー表示になり、使用できません。</p>
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>着信側デバイスは、送信側のデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が端末側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。</p> <p>(注) トランクの両端に、同じ言語グループに属さないユーザ ロケールが設定されている場合、電話機に表示される文字が文字化けすることがあります。</p> <p>[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)] チェックボックスのデフォルト値はオフです。</p>
[UTF-8 の名前を QSIG APDU で送信 (Transmit UTF-8 Names in QSIG APDU)]	<p>このデバイスは、デバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信し、UTF-8 形式で符号化します。ユーザ ロケール設定が一致しないと、デバイスは ASCII を送信し、UTF-8 形式で符号化します。</p> <p>設定パラメータが設定されておらず、デバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信し (名前が 8 ビット形式を使用している場合)、ISO8859-1 形式で符号化します。</p> <p>[UTF-8 の名前を QSIG APDU で送信 (Transmit UTF-8 Names in QSIG APDU)] チェックボックスのデフォルト値はオフです。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)


フィールド	説明
[不在ポート (Unattended Port)]	<p>コールを不在ポート (ボイスメール ポートなど) にリダイレクトおよび転送できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスのデフォルト値はオフです。</p>
[SRTP を許可 (SRTP Allowed)]	<p>トランクを介したセキュア メディア コールと非セキュア メディア コールを Cisco Unified Communications Manager で許可する場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、SIP トランク接続を介した Secure Real-Time Protocol (SRTP) が有効になります。また、エンドポイントで SRTP がサポートされていない場合に、SIP トランクが Real-Time Protocol (RTP) にフォールバックすることも可能になります。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合、Cisco Unified Communications Manager はトランクとの SRTP ネゴシエーションを防止し、RTP ネゴシエーションを使用します。</p> <p>このチェックボックスのデフォルト値はオフです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p> <b>注意</b> このチェックボックスをオンにする場合は、暗号化された TLS プロファイルを使用して、コール ネゴシエーション中に鍵や他のセキュリティ関連の情報が公開されないようにすることを強くお勧めします。セキュアでないプロファイルを使用する場合でも SRTP は機能しますが、鍵はシグナリングおよびトレースで公開されます。その場合、Cisco Unified Communications Manager とトランクの宛先側の間のネットワークのセキュリティを確実にする必要があります。</p> </div> <p>トランクの暗号化の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[このトランクのトラフィックがセキュアであると見なす (Consider Traffic on This Trunk Secure)]	<p>このフィールドでは、SIP トランクの既存のセキュリティ設定を拡張します。この拡張により、SRTP がネゴシエートされる場合に、シグナリング転送と関係なく、SIP トランク コール ログをセキュアであると見なすことができます。</p> <p>次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [sRTP と TLS 両方の使用時 (When using both sRTP and TLS)] : デフォルト</li> <li>• [sRTP のみの使用時 (When using sRTP Only)] : [SRTP を許可 (SRTP Allowed)] チェックボックスをオンにした場合に表示されます。</li> </ul> <p>セキュリティおよびトランクの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ルートクラスシグナリングを使う (Route Class Signaling Enabled)]	<p>ドロップダウンリストで、ポートのルート クラス シグナリングを有効または無効にします。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは <b>Route Class Signaling</b> サービス パラメータの設定値を使用します。</li> <li>• [オフ (Off)] : この値は、ルート クラス シグナリングを有効にする場合に選択します。この設定は、<b>Route Class Signaling</b> サービス パラメータよりも優先されます。</li> <li>• [オン (On)] : この値は、ルート クラス シグナリングを無効にする場合に選択します。この設定は、<b>Route Class Signaling</b> サービス パラメータよりも優先されます。</li> </ul> <p>ルート クラス シグナリングによって、受信側デバイスに特殊なルーティング要件または終端要件が通知されます。ポートでホットライン機能をサポートできるようにするには、この設定を有効にする必要があります。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。</li> <li>• [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。</li> <li>• [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。</li> </ul> <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の <a href="#">「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」</a> を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク仮想化および信頼できるリレーポイントの詳細な説明については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の <a href="#">「メディア リソースの管理」</a> の章の <a href="#">「信頼済みリレーポイント」</a> の項、およびそのサブトピックを参照してください。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[PSTN アクセス (PSTN Access)]	<p>Cisco Intercompany Media Engine 機能を使用する場合、このトランク経由で発信されたコールが PSTN に到達する可能性があることを示すには、このチェックボックスをオンにします。このトランク デバイス経由のすべてのコールが PSTN に到達しない場合でも、このチェックボックスをオンにします。たとえば、コールが PSTN に到達する可能性がある場合、タンデム トランクまたは H.323 ゲートキーパーによりルーティングされるトランクについてこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、このトランク デバイス経由で発信されたコールを検証するための Voice Call Records (VCRs; 音声コール レコード) が作成およびアップロードされます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。</p> <p>Cisco Intercompany Media Engine の詳細については、『Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide』を参照してください。</p>
[すべてのアクティブな Unified CM ノードで実行 (Run On All Active Unified CM Nodes)]	トランクがすべてのノードで実行されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
<b>[Intercompany Media Engine (IME)]</b>	
[E.164 トランスフォーメーションプロファイル (E.164 Transformation Profile)]	<p>Cisco Intercompany Media Engine を使用し、コールが PSTN に到達する可能性がある場合は、このチェックボックスをオンにします。詳細については、『Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide』を参照してください。</p> <p>ドロップダウン リストボックスで、[Intercompany Media Service E.164 トランスフォーメーションの設定 (Intercompany Media Services E.164 Transformation Configuration)] ウィンドウで作成した適切な E.164 トランスフォーメーションを選択します ([ 拡張機能 (Advanced Features) ] &gt; [Intercompany Media Services] &gt; [E.164 トランスフォーメーション (E.164 Transformation)])。</p> <p>Cisco Intercompany Media Engine の詳細については、『Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide』を参照してください。</p>
<b>[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]</b>	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リストから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。このフィールドをブランクのままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p> <p>[MLPP ドメイン (MLPP Domain)] のデフォルト値は [なし (None)] です。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ リモート パーティ ID(Remote-Party-Id)]	<p data-bbox="732 352 1466 527">Cisco Unified Communications Manager からリモート接続先への発信 SIP メッセージで、Remote-Party-ID (RPID) ヘッダーの送信を SIP トランクに許可または禁止する場合に、このチェックボックスを使用します。このチェックボックスをオンにした場合、SIP トランクは必ず RPID ヘッダーを送信します。このチェックボックスをオフにした場合、SIP トランクは RPID ヘッダーを送信しません。</p> <p data-bbox="732 533 1466 653"><b>(注)</b> QSIG トンネルが有効な場合、[ 発呼者名の表示 (Calling Name Presentation) ]、[ 接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation) ]、および [ 接続先名の表示 (Connected Name Presentation) ] は使用できません。</p> <p data-bbox="732 674 1024 701"><b>発信 SIP トランク コール</b></p> <p data-bbox="732 709 1466 884">[ 発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation) ] オプションと [ 発呼者名の表示 (Calling Name Presentation) ] オプションの設定済みの値は、RPID ヘッダーのプライバシ フィールドを構築するときの基礎になります。これら 2 つの各オプションには、[ デフォルト (Default) ]、[ 許可 (Allowed) ]、または [ 非許可 (Restricted) ] の値を設定できます。</p> <p data-bbox="732 890 1466 1157">どちらかのオプションが [ デフォルト (Default) ] に設定されている場合、RPID ヘッダー内の対応する情報 ([ 発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation) ] と [ 発呼者名の表示 (Calling Name Presentation) ]) のいずれか一方または両方は、Cisco Unified Communications Manager 内のコール制御レイヤ (コールごとの設定) から読み込まれます。どちらかのオプションが [ 許可 (Allowed) ] または [ 非許可 (Restricted) ] に設定されている場合、RPID ヘッダー内の対応する情報は SIP の [ トランクの設定 (Trunk Configuration) ] ウィンドウから読み込まれます。</p> <p data-bbox="732 1178 1024 1205"><b>着信 SIP トランク コール</b></p> <p data-bbox="732 1213 1466 1388">[ 接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation) ] オプションと [ 接続先名の表示 (Connected Name Presentation) ] オプションの設定済みの値は、RPID ヘッダーのプライバシ フィールドを構築するときの基礎になります。これら 2 つの各オプションには、[ デフォルト (Default) ]、[ 許可 (Allowed) ]、または [ 非許可 (Restricted) ] の値を設定できます。</p> <p data-bbox="732 1394 1466 1541">[ 接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation) ] オプションと [ 接続先名の表示 (Connected Name Presentation) ] オプションは、Cisco Unified Communications Manager が受信する INVITE メッセージに応じて、SIP トランクが送信する 180/200 メッセージに関連していることに注意してください。</p> <p data-bbox="732 1547 1466 1814">どちらかのオプションが [ デフォルト (Default) ] に設定されている場合、RPID ヘッダー内の対応する情報 ([ 接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation) ] と [ 接続先名の表示 (Connected Name Presentation) ]) のいずれか一方または両方は、Cisco Unified Communications Manager 内のコール制御レイヤ (コールごとの設定) から読み込まれます。どちらかのオプションが [ 許可 (Allowed) ] または [ 非許可 (Restricted) ] に設定されている場合、RPID ヘッダー内の対応する情報は SIP の [ トランクの設定 (Trunk Configuration) ] ウィンドウから読み込まれます。</p> <p data-bbox="732 1820 1466 1906"><b>(注)</b> [ リモートパーティ ID(Remote-Party-Id) ] オプションと [ アサート済 ID(Asserted-Identity) ] オプションは、表示 ID 情報の通信に使用される独立したメカニズムです。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[アサート済 ID(Asserted-Identity)]	<p>SIP メッセージで Asserted-Type ヘッダーと SIP Privacy ヘッダーの送信を SIP トランクに許可または禁止する場合に、このチェックボックスを使用します。このチェックボックスをオンにした場合、SIP トランクは必ず Asserted-Type ヘッダーを送信します。SIP トランクが SIP Privacy ヘッダーを送信するかどうかは、[SIP プライバシ (SIP Privacy)] の設定によって異なります。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合、SIP トランクは SIP メッセージで Asserted-Type ヘッダーも SIP Privacy ヘッダーも送信しません。</p> <p>詳細については、この表の [アサート済タイプ (Asserted-Type)] と [SIP プライバシ (SIP Privacy)] の説明を参照してください。</p> <p><b>発信 SIP トランク コール : P ヘッダー</b></p> <p>Asserted Identity (P-Asserted-Identity または P-Preferred-Identity) ヘッダーが送信されるかどうかは、[アサート済タイプ (Asserted-Type)] オプションに設定されている値によって異なります。[アサート済タイプ (Asserted-Type)] にデフォルト以外の値を入力すると、Cisco Unified Communications Manager コール制御から読み込まれた値は上書きされます。[アサート済タイプ (Asserted-Type)] オプションが [デフォルト (Default)] に設定されている場合、SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager コール制御から受信するスクリーニング ID の値によって、[アサート済 ID(Asserted-Identity)] のタイプが決まります。</p> <p><b>発信 SIP トランク コール : SIP Privacy ヘッダー</b></p> <p>SIP Privacy ヘッダーが使用されるのは、[アサート済 ID(Asserted-Identity)] チェックボックスがオンになっていて、SIP トランクが PAI ヘッダーまたは PPI ヘッダーを送信する場合だけです (それ以外の場合、SIP Privacy ヘッダーは着信 SIP メッセージで送信も処理も行われません)。</p> <p>SIP Privacy ヘッダーの値は、[SIP プライバシ (SIP Privacy)] オプションで設定された値によって異なります。</p> <p>[SIP プライバシ (SIP Privacy)] にデフォルト以外の値を入力すると、Cisco Unified Communications Manager コール制御から読み込まれた値は上書きされます。</p> <p>[SIP プライバシ (SIP Privacy)] オプションが [デフォルト (Default)] に設定されている場合、SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager コール制御から受信する [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] と [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] によって、SIP Privacy ヘッダーが決まります。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[アサート済 ID(Asserted-Identity)] (続き)	<p><b>着信 SIP トランク コール : P ヘッダー</b></p> <p>Asserted Identity (P-Asserted-Identity または P-Preferred-Identity) ヘッダーが送信されるかどうかは、[アサート済タイプ (Asserted-Type)] オプションに設定されている値によって異なります。[アサート済タイプ (Asserted-Type)] にデフォルト以外の値を入力すると、Cisco Unified Communications Manager コール制御から読み込まれた値は上書きされます。[アサート済タイプ (Asserted-Type)] オプションが [デフォルト (Default)] に設定されている場合、SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager コール制御から受信するスクリーニング ID の値によって、[アサート済 ID(Asserted-Identity)] のタイプが決まります。</p> <p><b>着信 SIP トランク コール : SIP Privacy ヘッダー</b></p> <p>SIP Privacy ヘッダーが使用されるのは、[アサート済 ID(Asserted-Identity)] チェックボックスがオンになっていて、SIP トランクが PAI ヘッダーまたは PPI ヘッダーを送信する場合だけです (それ以外の場合、SIP Privacy ヘッダーは着信 SIP メッセージで送信も処理も行われません)。</p> <p>SIP Privacy ヘッダーの値は、[SIP プライバシ (SIP Privacy)] オプションで設定された値によって異なります。</p> <p>[SIP プライバシ (SIP Privacy)] にデフォルト以外の値を入力すると、Cisco Unified Communications Manager コール制御から読み込まれた値は上書きされます。</p> <p>[SIP プライバシ (SIP Privacy)] オプションが [デフォルト (Default)] に設定されている場合、SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager コール制御から受信する [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] と [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] によって、SIP Privacy ヘッダーが決まります。</p> <p><b>(注)</b> [リモートパーティ ID(Remote-Party-Id)] オプションと [アサート済 ID(Asserted-Identity)] オプションは、表示 ID 情報の通信に使用される独立したメカニズムです。</p>



表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[アサート済タイプ (Asserted-Type)]	<p>ドロップダウン リストから次のいずれかの値を選択して、SIP トランク メッセージに含める必要のある Asserted Identity ヘッダーのタイプを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default)] : このオプションはデフォルト値を示します。SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager コール制御から受信するスクリーニング表示の情報によって、SIP トランクが送信するヘッダーのタイプが決まります。</li> <li>• [PAI] : Privacy-Asserted Identity (PAI) ヘッダーが発信 SIP トランク メッセージで送信されます。この値により、Cisco Unified Communications Manager から読み込まれたスクリーニング表示の値は上書きされます。</li> <li>• [PPI] : Privacy Preferred Identity (PPI) ヘッダーが発信 SIP トランク メッセージで送信されます。この値により、Cisco Unified Communications Manager から読み込まれたスクリーニング表示の値は上書きされます。</li> </ul> <p>(注) これらのヘッダーが使用されるのは、[アサート済 ID(Asserted-Identity)] チェックボックスがオンになっている場合だけです。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[SIP プライバシ (SIP Privacy)]	<p>ドロップダウン リストから次のいずれかの値を選択して、SIP トランク メッセージに含める必要のある SIP Privacy ヘッダーのタイプを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[デフォルト (Default)] : このオプションはデフォルト値を示します。SIP トランクが Cisco Unified Communications Manager コール制御から受信する名前/番号表示の値によって、SIP Privacy ヘッダーが決まります。たとえば、名前/番号表示が [非許可 (Restricted)] の場合、SIP トランクは SIP Privacy ヘッダーを送信します。名前/番号表示が [許可 (Allowed)] の場合、SIP トランクは Privacy ヘッダーを送信しません。</li> <li>[なし (None)] : SIP トランクに Privacy:none ヘッダーが含まれ、「表示の許可」を意味します。この値により、Cisco Unified Communications Manager から読み込まれた表示情報は上書きされます。</li> <li>[ID] : SIP トランクに Privacy:id ヘッダーが含まれ、名前と番号の「表示の非許可」を意味します。この値により、Cisco Unified Communications Manager から読み込まれた値は上書きされます。</li> <li>[ID 重要 (ID Critical)] : SIP トランクに Privacy:id:critical ヘッダーが含まれ、名前と番号の「表示の非許可」を意味します。「critical」というラベルは、このメッセージで要求されているプライバシー サービスが重要であることを意味します。ネットワークがこれらのプライバシー サービスを提供できない場合、この要求は拒否されます。この値により、Cisco Unified Communications Manager から読み込まれた表示情報は上書きされます。</li> </ul> <p>(注) これらのヘッダーが使用されるのは、[アサート済 ID(Asserted-Identity)] チェックボックスがオンになっている場合だけです。</p>
<b>[インバウンドコール (Inbound Calls)]</b>	
[有意な数字 (Significant Digits)]	<p>有意な数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。SIP デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。</p> <p>収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を選択するか、または [すべて (All)] を選択します。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。</p> <p>[有意な数字 (Significant Digits)] のデフォルト値は [すべて (All)] です。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、接続された側の番号を発信側に提供するために、補助的なサービスとして Connected Line ID Presentation (COLP; 接続先回線 ID の表示) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、コールごとの設定に優先します。</p> <p>[ 接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] のデフォルト値は [ デフォルト (Default)] で、これは [ 許可 (Allowed)] に変換されます。接続された回線の情報を Cisco Unified Communications Manager が送信するようにする場合は、[ デフォルト (Default)] を選択します。</p> <p>接続された回線の情報を Cisco Unified Communications Manager が送信しないようにする場合は、[ 非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p><b>(注)</b> QSIG トンネルが有効な場合、このサービスは使用できません。</p>
[ 接続先名の表示 (Connected Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、接続された側の名前を発信側に提供するために、補助的なサービスとして Connected Name ID Presentation (CONP; 接続側の名前 ID 表示) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、コールごとの設定に優先します。</p> <p>[ 接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] のデフォルト値は [ デフォルト (Default)] で、これは [ 許可 (Allowed)] に変換されます。接続された名前の情報を Cisco Unified Communications Manager が送信するようにする場合は、[ デフォルト (Default)] を選択します。</p> <p>接続された名前の情報を Cisco Unified Communications Manager が送信しないようにする場合は、[ 非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p><b>(注)</b> QSIG トンネルが有効な場合、このサービスは使用できません。</p>
[ コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なトランクのコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示する項目数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのコーリングサーチスペースが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [ 検索 (Find)] ボタンが表示されます。[ 検索 (Find)] ボタンをクリックして、[ コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリングサーチスペース名を検索し、選択します。詳細については、「<a href="#">コーリングサーチスペースの設定値</a>」(P.41-1) を参照してください。</p> <p><b>(注)</b> リストボックスの最大項目を設定するには、[ システム (System)] &gt; [ エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[ CCMAdmin Parameters] を選択します。</p> <p>[ コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] のデフォルト値は [ なし (None)] です。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p> <p>[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)] のデフォルト値は [なし (None)] です。</p>
[プレフィックス DN(Prefix DN)]	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、まず、[有意な数字 (Significant Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p> <p>国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。</p>
[Diversion ヘッダー配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Inbound)]	<p>Cisco Unified Communications Manager に対する受信 INVITE メッセージの Redirecting Number を受理するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager に対する受信 INVITE メッセージの Redirecting Number を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>[Diversion ヘッダー配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Inbound)] のデフォルト値はオフです。</p>
<b>[着信発呼者の設定 (Incoming Calling Party Settings)]</b>	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	<p>すべての発呼側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。</p>
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	<p>すべてのプレフィックスフィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 着信番号 (Incoming Number)]	<p>[ 発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [ 不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ プレフィックス (Prefix) ] : Cisco Unified Communications Manager は、[ 発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [ 不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。</li> </ul> <p>[ プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[ 削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [ プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [ 削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[ デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [ プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ 削除桁数 (Strip Digits) ] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [ 不明 (Unknown)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。</li> <li>• [ デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS) ] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [ 不明な番号 (Unknown Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。</li> <li>• [ コーリングサーチスペース (Calling Search Space) ] : この設定を使用すると、デバイスで [ 不明 (Unknown)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</li> </ul> <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [ なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌル パーティションに設定してください。</p> <p><b>ヒント</b> これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[ デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)」、[ ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)」、または [ トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>[接続側の設定 (Connected Party Settings)]</b>	
[接続側トランスフォーメーション CSS(Connected Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、接続側番号を別の形式 (DID、E164 番号など) で表示するために、デバイスの接続側番号を変換できます。Cisco Unified Communications Manager では、200 OK メッセージや通話中の更新/再招待メッセージなど、さまざまな SIP メッセージのヘッダーに変換済みの番号が組み込まれます。選択する接続側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる接続側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p><b>(注)</b> [接続側トランスフォーメーション CSS(Connected Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[接続側トランスフォーメーション CSS(Connected Party Transformation CSS)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの接続側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Connected Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている接続側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでこのデバイスに設定した [接続側トランスフォーメーション CSS(Connected Party Transformation CSS)] が使用されます。</p>
<b>[アウトバウンドコール (Outbound Calls)]</b>	
[着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイス上で着信側番号をローカライズできます。選択する着信側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p><b>(注)</b> [着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの着信側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Called Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている着信側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでこのデバイスに設定した [着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] が使用されます。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ 発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p><b>ヒント</b> コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[ 発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] を [ なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[ 発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非スルパティションに設定してください。</p>
[ デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[ トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで設定した [ 発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] が使用されます。</p>
[ 発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	<p>発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ 発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• [ 最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : 転送デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• [ 最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• [ 最初のリダイレクト番号 (外部) (First Redirect Number (External))] : リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。</li> <li>• [ 最後のリダイレクト番号 (外部) (Last Redirect Number (External))] : コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。</li> </ul> <p>[ 発呼者の選択 (Calling Party Selection)] のデフォルト値は [ 発信元 (Originator)] です。</p>
[ 発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側の番号を提供するために、補助的サービスとして発呼者回線 ID の表示 (CLIP) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、コールごとの設定に優先します。</p> <p>[ 発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] のデフォルト値は [ デフォルト (Default)] で、これは [ 許可 (Allowed)] に変換されます。発番号情報を Cisco Unified Communications Manager が送信するようにする場合は、[ デフォルト (Default)] を選択します。</p> <p>発番号情報を Cisco Unified Communications Manager が送信しないようにする場合は、[ 非許可 (Restricted)] を選択します。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)


フィールド	説明
[ 発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側の名前を提供するために、補助的サービスとして Calling Name ID Presentation (CNIP; 発信側の名前 ID 表示) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、コールごとの設定に優先します。</p> <p>発信側名前情報を Cisco Unified Communications Manager が送信するようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。[許可 (Allowed)] がデフォルトです。</p> <p>発信側名前情報を Cisco Unified Communications Manager が送信しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>[ 発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] のデフォルト値は [デフォルト (Default)] です。</p> <p> (注) QSIG トンネルが有効な場合、このサービスは使用できません。</p>
[ 発信者 ID DN (Caller ID DN)]	<p>トランクからの発信コールで、発信者 ID をフォーマットするのに使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、セントラル オフィス (CO) は、エリア コードとともにこの番号を追加します。</li> <li>• 5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリア コードとともにこの番号を追加します。</li> </ul> <p>国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。</p>
[ 発信者名 (Caller Name)]	<p>発信元の SIP デバイスから受信した発信者名を上書きするには、発信者名を入力します。</p>
[Diversion ヘッダー配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Outbound)]	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の着信側番号および転送理由を示すために、Cisco Unified Communications Manager からの Redirecting Number を送信 INVITE メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 INVITE メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number を使用します。ボイスメッセージ システムが Redirecting Number をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>[Diversion ヘッダー配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Outbound)] のデフォルト値はオフです。</p>



表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>[SIP 情報(SIP Information)]</b>	
[ 接続先アドレス (Destination Address)]	<p>[ 接続先アドレス (Destination Address)] は、このトランクが通信するリモート SIP デバイスを表します。このフィールドに入力できる値は、Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名)、または DNS SRV レコード ([ 接続先アドレスは SRV(Destination Address is an SRV)] フィールドがオンになっている場合に限る) です。</p> <p><b>(注)</b> SIP トランクは、設定済みの接続先アドレスから着信する要求と、このトランクと関連付けられている [SIP トランクセキュリティプロファイル(SIP Trunk Security Profile)] で指定した着信ポートから着信する要求だけを受け入れます。</p> <p>リモートエンドが Cisco Unified Communications Manager クラスタである場合、このフィールドには DNS SRV を指定することをお勧めします。DNS SRV レコードには、クラスタ内のすべての Cisco Unified Communications Manager が含まれている必要があります。</p> <p>複数の接続先アドレスを設定する場合は、次の情報に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 発信コールの場合、接続先アドレスはランダムに選択されます。接続先アドレス間の優先順位はありません。特定の発信コールに対して送信されるすべての SIP メッセージは、同じ接続先アドレスに送信されます。</li> <li>• SIP トランクは、設定された接続先アドレスすべてからの着信メッセージを受け入れます。</li> </ul>
[ 接続先アドレス IPv6(Destination Address IPv6)]	Cisco Unified Communications Manager Business Edition 5000 は IPv6 をサポートしないため、この設定は Cisco Unified Communications Manager Business Edition 5000 には適用されません。
[ 接続先アドレスは SRV(Destination Address is an SRV)]	<p>このフィールドでは、設定済みの接続先アドレスが SRV レコードであることを指定します。</p> <p>デフォルト値は、オフです。</p>
[ 接続先ポート (Destination Port)]	<p>接続先ポートを選択します。このフィールドには、必ず 1024 ~ 65535 の範囲でポートを指定してください。</p> <p><b>(注)</b> 複数のトランクに同じポート番号を指定できるようになりました。</p> <p>宛先アドレスが DNS SRV ポートの場合、値を入力する必要はありません。デフォルトの 5060 は SIP ポートを示します。</p> <p>[ 接続先ポート (Destination Port)] のデフォルト値は 5060 です。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MTP優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec)]	<p>次の任意の発信コーデックを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [711ulaw]</li> <li>• [711alaw]</li> <li>• [G729/G729a]</li> <li>• [G729b/G729ab]</li> </ul> <p>(注) SIP トランクで使用するために G.729 コーデックを設定するには、G.729 コーデックをサポートするハードウェア MTP またはトランスコーダを使用する必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の第 23 章「トランスコーダ」を参照してください。</p> <p>このフィールドは、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスがオンの場合にだけ使用されます。</p>
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、SIP トランク用のプレゼンス グループを選択します。選択したグループにより、SIP トランクに接続されているデバイス、アプリケーション、またはサーバが監視できる対象が指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group)] のデフォルト値は、インストール時に設定された標準のプレゼンス グループです。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されたプレゼンス グループもドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス許可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p> <p><b>ヒント</b> プレゼンス グループは、SIP トランクに適用することも、SIP トランクに接続されているアプリケーションに適用することもできます。プレゼンス グループが SIP トランクと SIP トランク アプリケーションの両方に設定されている場合、アプリケーションに適用されているプレゼンス グループが、トランクに適用されているプレゼンス グループを上書きします。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)]	<p>SIP トランクに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。</p> <p>セキュリティ プロファイルは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべての SIP トランクに適用する必要があります。Cisco Unified Communications Manager をインストールすると、あらかじめ定義された非セキュアな SIP トランク セキュリティ プロファイルが自動登録用に提供されます。SIP トランクのセキュリティ機能を使用可能にするには、新しいセキュリティ プロファイルを設定して SIP トランクに適用します。トランクがセキュリティをサポートしていない場合は、非セキュア プロファイルを選択します。</p> <p>プロファイルに含まれている設定値を確認するには、[システム (System)] &gt; [セキュリティプロファイル (Security Profile)] &gt; [SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)] の順に選択します。</p> <p>セキュリティ プロファイルを設定する方法については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p> <p>[SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)] のデフォルト値は [-- 選択されていません --] です。</p>
[再ルーティング用コーリングサーチスペース (Rerouting Calling Search Space)]	<p>コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索できるパーティションが決まります。再ルーティング コーリング サーチ スペースは、SIP ユーザ (A) が別のユーザ (B) をサードパーティ (C) に転送するときの対象場所を決める場合に使用されます。転送の完了後、B と C が接続されます。この場合、使用される再ルーティング コーリング サーチ スペースは、最初の SIP ユーザ (A) のものです。</p> <p><b>(注)</b> コーリング サーチ スペースは、3xx リダイレクション機能および INVITE with Replaces 機能にも適用されます。</p> <p>[再ルーティング用コーリングサーチスペース (Rerouting Calling Search Space)] のデフォルト値は [なし (None)] です。</p>
[Out-Of-Dialog REFER コーリングサーチスペース (Out-Of-Dialog Refer Calling Search Space)]	<p>コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索できるパーティションが決まります。out-of-dialog コーリング サーチ スペースは、SIP ユーザ (A) の介入がない場合に Cisco Unified Communications Manager が SIP ユーザ (A) に着信するコール (B) をサードパーティ (C) に転送するとき使用されます。この場合、システムは SIP ユーザ (A) の out-of-dialog コーリング サーチ スペースを使用します。</p> <p>[Out-Of-Dialog REFER コーリングサーチスペース (Out-Of-Dialog Refer Calling Search Space)] のデフォルト値は [なし (None)] です。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[SUBSCRIBE コーリング検索スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能でサポートされている SUBSCRIBE コーリング検索スペースによって、Cisco Unified Communications Manager が、SIP トランクに接続するデバイス、サーバ、またはアプリケーションからのプレゼンス要求をルーティングする方法が決まります。この設定により、SIP トランクのプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に対して、コール処理検索スペースとは別のコーリング検索スペースを適用できます。</p> <p>ドロップダウンリストボックスから、SIP トランクのプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリング検索スペースを選択します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべてのコーリング検索スペースが、[SUBSCRIBE コーリング検索スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスに表示されます。</p> <p>ドロップダウンリストから、SIP トランク用に別のコーリング検索スペースを選択しない場合、[SUBSCRIBE コーリング検索スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] はデフォルトで [なし (None)] になります。</p> <p>この用途専用の SUBSCRIBE コーリング検索スペースを設定するには、すべてのコーリング検索スペースと同じようにコーリング検索スペースを設定します。コーリング検索スペースを設定する方法については、「<a href="#">コーリング検索スペースの設定 (P.41-1)</a>」を参照してください。</p>
[SIP プロファイル (SIP Profile)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、この SIP トランクに使用する SIP プロファイルを選択します。</p> <p>[SIP プロファイル (SIP Profile)] のデフォルト値は [選択されていません (None Selected)] です。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[DTMF シグナリング方式 (DTMF Signaling Method)]	<p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <p>[初期設定なし (No Preference)] (デフォルト) : Cisco Unified Communications Manager が DTMF 方式を選択して DTMF をネゴシエートします。したがって、コールに MTP は不要です。Cisco Unified Communications Manager が MTP を割り当てる必要がある場合 ([メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスがオンである場合)、SIP トランクは DTMF として RFC2833 をネゴシエートします。</p> <p>[RFC2833] : トランクで使用される優先 DTMF 方式を RFC2833 にする場合は、この設定を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、MTP を使用するかどうかにかかわらず、できる限り RFC2833 をネゴシエートしようとします。アウトオブバンドは、ピア エンドポイントがアウトオブバンドをサポートしている場合のフォールバック方式を提供します。</p> <p>[OOB および RFC2833 (OOB and RFC 2833)] : DTMF にアウトオブバンドと RFC2833 の両方を使用する必要がある場合は、この設定を選択します。</p> <p>(注) ピア エンドポイントがアウトオブバンドと RFC2833 の両方をサポートしている場合、Cisco Unified Communications Manager はアウトオブバンドと RFC2833 の両方の DTMF 方式をネゴシエートします。その結果、同じ DTMF キープレスに対して 2 つの DTMF イベントが送信されます (1 つはアウトオブバンド、もう 1 つは RFC2833)。</p>
<b>[正規化スクリプト (Normalization Script)]</b>	
[正規化スクリプト (Normalization Script)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、正規化スクリプトを選択します。</p> <p>別のスクリプトをインポートするには、[SIP 正規化スクリプト設定 (SIP Normalization Script Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] &gt; [デバイスの設定 (Device Settings)] &gt; [SIP 正規化スクリプト (SIP Normalization Script)]) に移動し、新しいスクリプト ファイルをインポートします。</p>

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明								
[パラメータ名 (Parameter Name)]/[パラメータ値 (Parameter Value)]	<p>オプションで、パラメータ名およびパラメータ値を入力します。有効な値は、等号 (=)、セミコロン (;)、および印刷できない文字 (タブなど) を除くすべての文字です。値を持たないパラメータ名を入力できます。</p> <p>例 :</p> <table border="0"> <tr> <td>パラメータ名</td> <td>パラメータ値</td> </tr> <tr> <td>CCA-ID</td> <td>11223344</td> </tr> <tr> <td>pbx</td> <td></td> </tr> <tr> <td>location</td> <td>RTP</td> </tr> </table> <p>パラメータ名およびパラメータ値を入力する前に、[正規化スクリプト (Normalization Script)] ドロップダウン リスト ボックスでスクリプトを選択する必要があります。</p> <p>パラメータ行を追加するには、[+] (プラス) ボタンをクリックします。パラメータ行を削除するには、[-] (マイナス) ボタンをクリックします。</p>	パラメータ名	パラメータ値	CCA-ID	11223344	pbx		location	RTP
パラメータ名	パラメータ値								
CCA-ID	11223344								
pbx									
location	RTP								
[トレースを有効にする (Enable Trace)]	<p>スクリプト内でトレースを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。トレースを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。チェックボックスをオンにすると、Lua スクリプトに対して提供される <code>trace.output</code> API によって SDI トレースが生成されます。</p> <p><b>(注)</b> スクリプトをデバッグするときだけにトレースを有効にすることを推奨します。トレースはパフォーマンスに影響するため、通常の稼動状態では有効にしないでください。</p>								
<b>[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]</b>									
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] &gt; [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の説明については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「<a href="#">位置情報</a>」の章の「<a href="#">位置情報について</a>」および「<a href="#">位置情報の設定</a>」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「<a href="#">論理パーティション</a>」を参照してください。</p>								

表 68-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>[&lt;なし (None)&gt;] 設定のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタが適用されません。</p> <p>[システム (System)] &gt; [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報」の章の「位置情報フィルタについて」および「位置情報フィルタの設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報フィルタの使用法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[位置情報の送信 (Send Geolocation Information)]	<p>このデバイスの位置情報を送信するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>論理パーティションで位置情報を使用する方法の概要と詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」の章を参照してください。</p>

## トランクの検索

ネットワーク内には複数のトランクが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定してトランクを検索することができます。Cisco Unified Communications Manager データベース内で特定のトランクを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、トランクの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、トランクの検索設定は保持されます。

### 手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] の順に選択します。
- [トランクの検索と一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、[ステップ 3](#) に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
  - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
  - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

**ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

「関連項目」(P.68-68) を参照してください。

## トランクの設定

新規のトランク デバイスの追加または既存のトランク デバイスの更新を行う手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager システムごとに、複数のトランク デバイスを設定できます。

#### 始める前に

SIP トランクを設定する前に、SIP トランク セキュリティ プロファイルおよび SIP プロファイルを設定します。詳細については、「SIP プロファイルの設定値」(P.76-1)、「SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定」(P.25-3)、および『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。

#### 手順

**ステップ 1** [デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] の順に選択します。

[トランクの検索と一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウが表示されます。



**ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。

- 新規のトランク デバイスを追加する場合は、[ 新規追加 (Add New) ] ボタンをクリックします。[ トランクの設定 (Trunk Configuration) ] ウィンドウが表示されます。 [ステップ 3](#) に進みます。
- トランクの設定値を更新する場合は、適切なトランクを見つけます (「[トランクの検索](#)」 (P.68-63) を参照)。更新するトランクの名前をクリックします。 [ステップ 7](#) に進みます。

**ステップ 3** [ トランクタイプ (Trunk Type) ] ドロップダウン リストから、トランクのタイプを選択します。

**ステップ 4** 必要に応じて、[ デバイスプロトコル (Device Protocol) ] ドロップダウン リストから、デバイス プロトコルを選択します。

**ステップ 5** SIP トランクについて、[ トランクサービスタイプ (Trunk Service Type) ] ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。

- [ なし (None) ] : コール制御ディスカバリ、クラスタ間のエクステンション モビリティ、または Cisco Intercompany Media Engine にトランクが使用されない場合は、このオプションを選択します。
- [ コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery) ] : このオプションを選択すると、トランクで コール制御ディスカバリをサポートできるようになります。[ アドバタイジングサービス (Advertising Service) ] ウィンドウで CCD アドバタイジング サービスにこのトランクを割り当てた場合、トランクは、SAF ネットワークを使用するリモート コール制御エンティティからの着信 コールを処理します。[ 要求サービス (Requesting Service) ] ウィンドウで CCD 要求サービスにこのトランクを割り当てた場合、トランクは、学習パターンへの発信コールを処理します。コール制御ディスカバリ機能の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[コール制御ディスカバリ](#)」を参照してください。
- [ クラスタ間のエクステンションモビリティ (Extension Mobility Cross Cluster) ] : このオプションを選択すると、トランクでクラスタ間のエクステンション モビリティ機能をサポートできるようになります。クラスタ間のエクステンション モビリティ機能の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド*』の「[Cisco クラスタ間のエクステンション モビリティ](#)」を参照してください。
- [ Cisco Intercompany Media Engine ] : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされ、使用可能になっていることを確認してください。



**ヒント** トランク サービス タイプで [ コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery) ]、[ クラスタ間のエクステンションモビリティ (Extension Mobility Cross Cluster) ]、または [ Cisco Intercompany Media Engine ] を選択し、[ 次へ (Next) ] をクリックすると、それ以降はトランクを別のタイプに変更できなくなります。

**ステップ 6** [ 次へ (Next) ] をクリックします。

**ステップ 7** 表示されている [ トランクの設定 (Trunk Configuration) ] ウィンドウで、ゲートキーパーによって制御された H.225 トランク、ゲートキーパーによって制御されたクラスタ間トランク、およびゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランクに対して適切な設定値を入力します (表 68-1 を参照)。SIP トランクの場合は、表 68-2 を参照して適切な設定値を入力します。

**ステップ 8** [ 保存 (Save) ] をクリックして、新規トランクを追加します。

トランクがデータベースに追加されます。

既存のトランクを更新している場合は、[ 設定の適用 (Apply Config) ] をクリックして新しい設定を適用します (これによって、デバイスが再起動される場合もあります)。[ 設定の適用 (Apply Config) ] ボタンの詳細については、「[トランクの同期化](#)」 (P.68-68) を参照してください。



**(注)** トランクをリセットすると、そのトランクを使用している進行中のコールがすべて終了されます。ゲートウェイを再起動すると、そのゲートウェイを使用している進行中のコールを保持しようとします。それ以外のデバイスでは、コールが完了するまで待機してから、再起動またはリセットされます。H.323 または SIP デバイスの再起動やリセットは、ハードウェアを物理的に再起動またはリセットするのではなく、Cisco Unified Communications Manager によってロードされた設定を初期化するだけです。

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.68-68) を参照してください。

## トランクの削除

トランクを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

1 つまたは複数のルート パターンに割り当てられているトランクは、削除できません。トランクを使用しているルート パターンを検索するには、[トランクの設定(Trunk Configuration)] ウィンドウで [関連リンク(Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード(Dependency Records)] を選択し、[移動(Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約(Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用されているトランクを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager はメッセージを表示します。現在使用されているトランクを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するトランクを使用しているルート パターンすべてに、別のトランクを割り当てます。「[ルート パターンの設定値](#)」(P.33-1) を参照してください。
- 削除するトランクを使用しているルート パターンを削除します。「[ルート パターンの設定値](#)」(P.33-1) を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** [デバイス(Device)] > [トランク(Trunk)] の順に選択します。  
[トランクの検索と一覧表示(Find and List Trunks)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 検索条件を入力し、[検索(Find)] をクリックして、特定のトランクを見つけます。  
検索条件と一致するトランクのリストが表示されます。
- ステップ 3** 次のアクションのいずれかを実行します。
  - 削除するトランクの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除>Delete Selected] をクリックします。
  - [すべてを選択>Select All] をクリックしてから [選択項目の削除>Delete Selected] をクリックし、ウィンドウ内のすべてのトランクを削除します。
  - 削除するトランクの名前をリストから選択して、現在の設定値を表示し、[削除>Delete] をクリックします。

確認ダイアログが表示されます。

**ステップ 4** [OK] をクリックして、トランクを削除します。

#### 追加情報

「関連項目」(P.68-68) を参照してください。

## トランクのリセット

トランクをリセットする手順は、次のとおりです。



#### 注意

デバイスをリセットすると、そのデバイスのコールが欠落することがあります。

#### 手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] の順に選択します。  
[トランクの検索と一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックして、特定のトランクを見つけます。  
検索条件と一致するトランクのリストが表示されます。
- ステップ 3** リストから、リセットするトランクの名前をクリックします。  
[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** トランク デバイスの設定値を変更した後に、[リセット (Reset)] をクリックします。  
[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 5** 次のいずれかの項目をクリックします。
- [リスタート (Restart)] : トランク デバイスをシャットダウンしないで再起動します。
  - [リセット (Reset)] : 内部トランク デバイスをシャットダウンしてから再起動します。トランクがゲートキーパーによって制御されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、トランクへの登録を解除 (URQ) した後、再登録 (RRQ) します。
  - [閉じる (Close)] : 何も実行しないで、[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログを閉じます。



#### (注)

SIP トランクの場合、[リスタート (Restart)] と [リセット (Reset)] は同様に動作するので、どちらをクリックしてもすべてのアクティブ コールが接続解除されます。パケット キャプチャを使用可能または使用不可にする場合は、トランクに対して [リスタート (Restart)] も [リセット (Reset)] も実行する必要はありません。

#### 追加情報

「関連項目」(P.68-68) を参照してください。

# トランクの同期化

トランクを最新の設定変更と同期化する手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが必要な場合があります）。

## 手順

- 
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] の順に選択します。  
[トランクの検索と一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。  
検索条件に一致するトランクのリストがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 同期化するトランクの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のトランクをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。  
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。



(注) 再起動中は、アクティブ コールが接続解除される可能性があります。

---

## 追加情報

「関連項目」(P.68-68) を参照してください。

## 関連項目

- 「トランクの設定値」(P.68-1)
- 「トランクの検索」(P.68-63)
- 「トランクの設定」(P.68-64)
- 「トランクの削除」(P.68-66)
- 「トランクのリセット」(P.68-67)
- 「トランクの同期化」(P.68-68)
- 「SIP プロファイルの設定値」(P.76-1)
- 「SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定」(P.25-3)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「コールアドミッション制御」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager でのゲートキーパーとトランクの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「信頼済みリレー ポイント」

- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ローカル ルート グループ」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「コール制御ディスカバリ」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ」
- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』
- 『Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND)』

